

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778長期継続前兆続報 6月11日±発生の可能性否定困難 火山近傍地殻地震前兆・CH26-PBFとの関連も検討

6/5 配信のNo.2787観測情報で報告したCH26の連続BF (PBF) 前兆 (右波形参照) は、6/4の夕刻16時頃より出現開始、本日 6/6の夕刻現在出現継続中です。既に49時間継続M7±相当に達しています。影響局は基線に対し上側局で、函館250w・新居浜100w・延岡100wのいずれかですが、前情報のとおり新居浜100wの可能性有。Na1778前兆の推定領域を含みます。

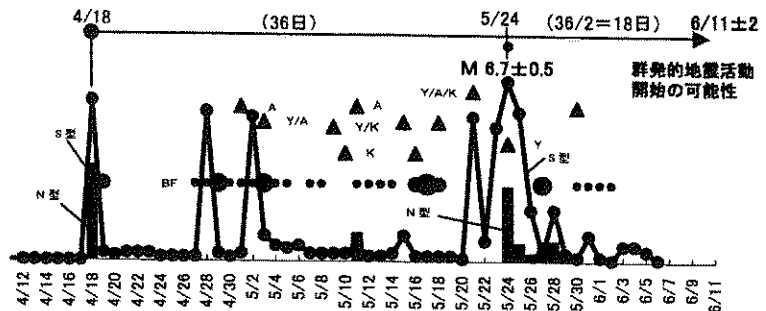
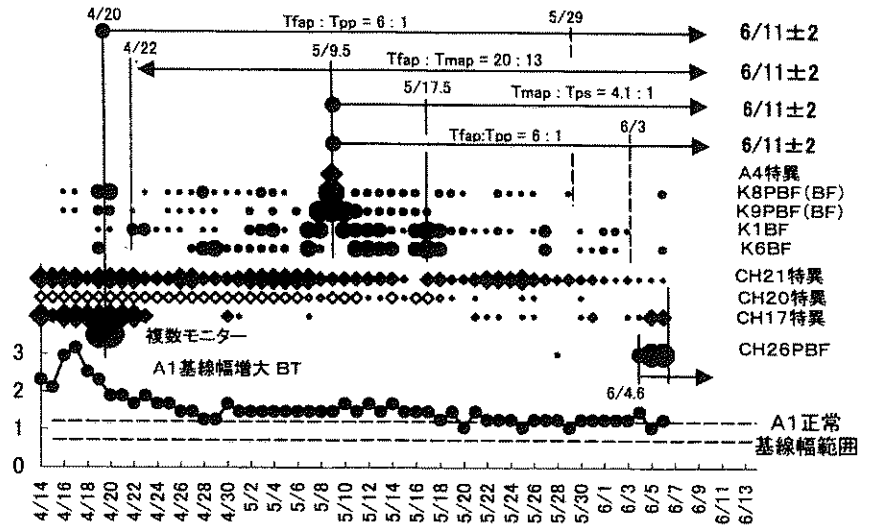
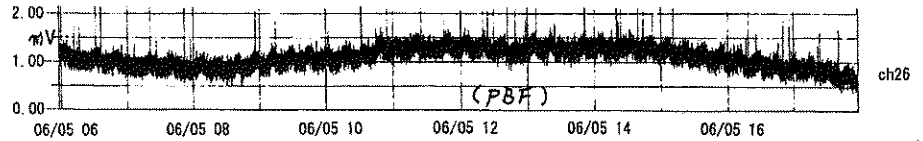
Na1778前兆第16ステージ (現在) の前兆出現状況は右図の通り。第15ステージが示した4/20の極大と第16ステージの極大5/9.5 に対し右図の様な関係認識では、全て6/11±を示します。

極大4/20 —終息 5/29(K8) —→6/11±
初現4/22 —極大 5/9.5 —→6/11±
極大5/9.5 —終息 6/3(K1, K6) —→6/11±

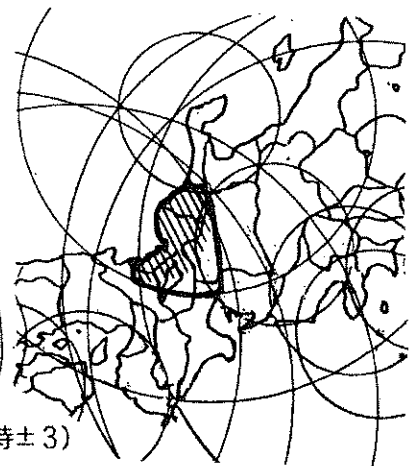
6/4 から出現中のCH26-PBFは新たな極大認識です。CH26-PBF出現に対し、CH17の糸状特異が長時間出現しており、本日観測されたK6, K8のBFもCH26極大に対して出現の可能性有。仮に上記認識の6/11±が正しい場合、CH26PBFは、6/4.7初現~6/11.4±発生として計算しますと、本日深夜に極大となる可能性も有。

さて、右図は熊本地震発生以降に出現した火山帯近傍地殻地震前兆です。初現4/18極大5/24で間隔は36日間、群発経験則である、初現~極大:極大~活動開始=2:1経験則を適用しますと、6/11±から群発的複合地震活動開始の可能性が示唆されます。推定領域は以前の観測情報で示したとおり、九州領域と近畿北陸領域の可能性の2種がです。極大5/24前後のS型火山近傍地殻地震前兆の変動面積の和からはM6.7±0.5相当が示唆されます。仮にNa1778推定領域と同じである場合は、Na1778前兆の対応活動が熊本地震の様な中規模地震が多発する複合地震活動となる可能性が示唆されます。(別の場合は九州地方の火山帯近傍での地震活動の可能性も否定できませんが、熊本地震前兆とはTmap日数も前兆形態も異なります)

以上は火山近傍地殻地震前兆とNa1778前兆が同一であった場合で、6/11±の可能性が示唆されます。また一方でNa1778前兆は、まだ前兆静穏期に入っていない可能性も否定はできません。この場合は実際の全ての前兆が終息するのを観測した後、発生日を推定計算することになりますが、5/9.5極大に対して、4/16初現と仮定しますと6/22±時期も計算できます。6/4 からCH26-PBF極大が出現しているため、各前兆終息が確かなのか、まだ継続中なのか判断が困難なため、2種の可能性を一応記します。火山近傍地殻地震前兆が6/11を示すため、都合の良い様に解釈している可能性も有。



- ◆推定領域: 右図太線領域内 (周辺含む)
斜線領域は参考推定領域
- ◆推定規模: M7.8±0.5 (他多数) 又は、火山近傍地殻地震前兆と同一の場合は、M6.7±0.5を主とした群発的中規模地震多発活動の可能性も有。
- ◆推定時期:
可能性① 6月11日 or 6月12日
可能性② 6月22日±or他
(※現在ステージが最終の場合でもまだ静穏期突入前の場合は実際の前兆終息を観測して推定。6/11±に極大出現の可能性も有。)
- ◇推定地震種: 震源浅い地殻地震
- ◇推定発生時刻: 午前9時±1 (又は午後6時±3)



こmail, FAXで配信しております実験観測情報は2~3日毎の配信のため、火山近傍地殻地震前兆の波形や出現状況、Na1778前兆が6/11±の可能性が示唆されること等、随時報告して参りましたが、PHP新書「地震予報」読者の皆様へのHPの更新ができず、大変申し訳ございません。本紙も観測情報の一部を転載しました。随時報告していない部分が多々あり判りにくいと思われませんが、お許しください。